

ユニー 環境コミュニケーション レポート



お客様と共に持続可能な社会の実現を目指しています



環境理念



地球規模での環境破壊が深刻化している今日、
脱炭素社会・循環型社会・自然共生社会を実現させた持続可能な社会を構築するために、
ユニーは企業活動を通して貢献します。

持続可能な社会を目指して

現在のことだけでなく未来に向かって地球環境を壊さずに、人間や地球の生き物が共存していく社会を構築していくこと、この未来に続く仕組みが持続可能な社会です。

エコストア、ステキな未来へはじめての一步

お買い物をする際の、ほんのちいさなエコココロが地球の未来を救います。10年後、20年後の地球の未来を快適なものにするために、ユニーと一緒に地球環境にやさしい生活をはじめてみませんか？

脱炭素社会

CO₂など温室効果ガス発生抑制を目指す社会

持続可能な社会

循環型社会

限りある資源を大切に、3Rを実践する社会

自然共生社会

生物多様性を
実現する社会

ユニーは100年後の子ども達のために SDGsに取り組んでいます。

ユニーは小売業として「SDGs 持続可能な開発目標」達成のため、環境活動・社会貢献活動において、お客様、地域の方々、地域行政、お取引先様、従業員などが一緒になって持続可能な社会をつくることをめざし、そして、お店に皆が集う地域のコミュニケーションスペースとしての機能作りにも取り組んでいます。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



ユニーのSDGsの取り組み

ユニーの重点テーマ	環 境				社会貢献	従 業 員	
	持続可能な社会に貢献します						
	脱炭素社会	循環型社会	自然共生社会	環境教育			
ユニーの取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ●地球温暖化防止 ●環境配慮商品開発 ●省エネルギー ●スマートシティ  <p>電気自動車充電スタンド設置</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●廃棄物削減 ●容器包装店頭回収 ●食品リサイクル  <p>リサイクルボックスで容器包装回収</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●食品販売を通じた生物保全活動 ●陸の豊かさを守る ●海の豊かさを守る  <p>田植え体験</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●子ども環境学習 ●出張授業 ●地域との環境教育 ●関連事業者連絡会  <p>子ども環境教育</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●被災地支援 ●エンシカルなお買い物 ●認知症お買い物サポーター  <p>認知症カフェ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●働きやすい職場環境 ●キャリアアップ制度 ●福利厚生 ●ダイバーシティ  <p>技能研修</p>	
関連するSDGs							

ユニーでは、エコ・ファーストの約束達成のためISO14001マネジメントシステムの範囲を拡大し、具体的な環境目標を設定しています。
持続可能な社会を目指し、企業活動を通して脱炭素社会、循環型社会、自然共生社会の実現のためお客様と一緒に「環境にやさしいお買い

環境方針	2018年度結果	評価
環境マネジメントシステムの構築	<ul style="list-style-type: none"> ●2回目のエコ・ファーストの約束の達成を環境大臣から承認された ●3回目のエコ・ファーストの約束を環境大臣と交わした ●エコ・ファーストの約束をISO14001実施計画に組み込み活動した ●環境マネジメントシステムの範囲を拡大し新たに50店舗が認証取得、173店舗全店舗で認証取得を達成 ●エネルギー、廃棄物排出状況、レジ袋削減、排水質管理、リサイクルなどの管理システムで目標管理を実施 	○
エコストアの実現	<ul style="list-style-type: none"> ●照明器具にLEDを合計150店舗に設置 ●環境配慮型PB商品eco!onの開発、販売を拡大した ●eco!on売上高約25億5,000万円 ●一部の環境配慮型PB商品eco!onのバリューチェーンの環境負荷低減効果を見える化しお客様に訴求した 	○
環境負荷の低減	<ul style="list-style-type: none"> ●省エネの取り組みとしてCO₂を原単位 2017年度対比6.3%削減 ●環境マネジメントシステムを通じて、省エネ教育を全店で実施 ●電気使用量 763,305kwh (92.1%) △7.9% ●ガス使用量 19,283千㎡ (97.5%) △2.5% ●石油使用量 5,135千ℓ (96.9%) △3.1% ●物流の合理化により輸送距離 2,059万km (94.7%)、エネルギー使用量原油換算 4,103kℓ (95.6%) ●段ボール 5.5%削減 ●PB商品の容器包装資材重量 1.7%削減 ●レジ袋使用量 3.6%削減 ●レジ袋辞退率 85.7% 	○
廃棄物の適正処理とリサイクル推進	<ul style="list-style-type: none"> ●廃棄物総排出量 4.9%削減 ●廃棄物処理場、リサイクル現場を確認 ●リサイクルループ全店に拡大 ●食品リサイクル率 76.9% ●発生抑制 売上高100万円当り 28.4kg △35.4% (2007年度比) ●再生利用等実施率 85.1% ●牛乳パック 507t (97.1%) ●食品トレイ 273t (97.7%) ●アルミ缶 675t (100.7%) ●ペットボトル 2,555t (105.0) ●リサイクルボックス回収実績 2.7%向上 ●バイオマスプラ製容器包装の使用品目は増やせなかったが、レジ袋や食品売場の透明カップについては継続して使用した 	○
環境情報の開示と環境保全活動	<ul style="list-style-type: none"> ●環境配慮型PB商品eco!onをHP等で紹介し、拡販した ●グリーンキャンペーン全店で年2回実施 5,522名参加 ●ISO理解活動の中で環境教育を全店実施 ●子ども環境学習 177店舗実施 2,592人参加 出張授業 (小学校等) 9回実施 644人参加 小中学校見学受入 64店舗 117回実施 7,681人参加 ●エコ博12回開催 55,200人参加 農業体験・エコツアー等21回開催 2,002人参加 ●環境関連事業者 (取引先) 連絡会セミナー2回開催 190社 293名参加 	○
環境汚染防止	<ul style="list-style-type: none"> ●排水水質検査全店実施、基準値以内法令遵守 ●低濃度PCBの適正管理を実施 ●フロン排出抑制法対応をISO目標として法令遵守 ●水銀汚濁防止法対応として電子Manifesto、保管管理等実施 ●受動喫煙防止の対応は継続課題 	○

容器包装とリサイクル

循環型社会



一般廃棄物排出量の削減 (リデュース・リユース) と再生利用 (リサイクル) を目的に、容器包装リサイクル法が施行されました。ユニーは特定事業者として再商品化やリサイクルに取り組み、家庭から出るごみの約6割 (容積比) を占める容器包装やレジ袋の削減に取り組みました。ユニーは容器包装をできるだけ使わない販売、使った後の容器包装を廃棄物にしない、サステナブル (持続可能な) 原料を使った容器包装を使用するなど、お客様と3Rを実施し環境負荷軽減に取り組んでいきます。

容器包装をできるだけ使わない販売への取り組み

レジ袋のように、お客様と一緒に「使わなくてもよい容器包装」を削減する。

使った後の容器包装を廃棄物にしない取り組み

お客様が商品と一緒に持ち帰った容器包装を回収し、再生資源にする。

サステナブル (持続可能な) 原料を使った容器包装への取り組み

限りある化石資源 (石油) を使用せず、繰り返し栽培可能な植物資源を原料にする。

レジ袋削減への取り組み

ユニーでは2007年からレジ袋無料配布中止 (有料化) を開始しました。2014年には全店の食品売り場でレジ袋無料配布中止に踏み切り、2018年度辞退率は85.7%でした。

●バイオマスプラスチック (バイオポリエチレン) 製容器包装



植物由来のバイオマスプラスチック製容器包装を使用しています。

使用済み容器包装のリサイクルループ

リサイクルボックスで使用済みの容器包装を回収、再資源化し、製品として販売等のリサイクルループを構築しています。





物]を推進します。

2019年度目標	
●エコ・ファーストの約束のフォローアップを環境大臣と行う	●エコ・ファーストの約束をISO14001実施計画に組み込み活動する
●環境マネジメントシステムにてエコ・ファーストの約束の目標管理をする	
●照明器具にLEDを全店舗に設置する	●環境配慮型PB商品eColonの認知及び売上拡大を図る
●環境配慮型PB商品eColonのバリューチェーンの環境負荷低減効果を見える化しお客様に訴求する	
●省エネの取り組みとしてCO2を原単位で1%削減する	●環境マネジメントシステムを通して、省エネ教育を毎月全店にて実施する
●使用エネルギーを5%削減する	
●物流の合理化による環境負荷低減を図る	
●段ボールを5%削減する	
●PB商品の容器包装資材の軽減化を図る	
●包装資材重量を3%削減する	
●レジ袋辞退率 86%	
●廃棄物総排出量を5%削減する	
●リサイクルループ全店での取り組みを継続する	
●食品リサイクル率 77%	●発生抑制 売上高100万円当り 28.0kg
●再生利用等実施率 86%	
●容器包装回収を推進し全店4品目を回収する	
●リサイクル回収量を増やす	
●バイオマスプラ製容器包装の品目拡大を検討	
●環境配慮型PB商品eColonをHP等で紹介し、拡販する	
●グリーンキャンペーン全店で年2回実施する	
●ISO理解活動の中で環境教育を実施する	
●子ども環境学習、出張授業(小学校等)の継続実施	
●エコ博10回開催	
●環境関連事業者(取引先)連絡会セミナー開催	
●全店舗での排水水質監視を実施	●低濃度PCBの適正管理を実施
●フロン排出抑制法の対応を実施	●廃棄物処理法の対応を実施
●受動喫煙防止の対応を実施	

廃棄物を削減する取り組み

循環型社会

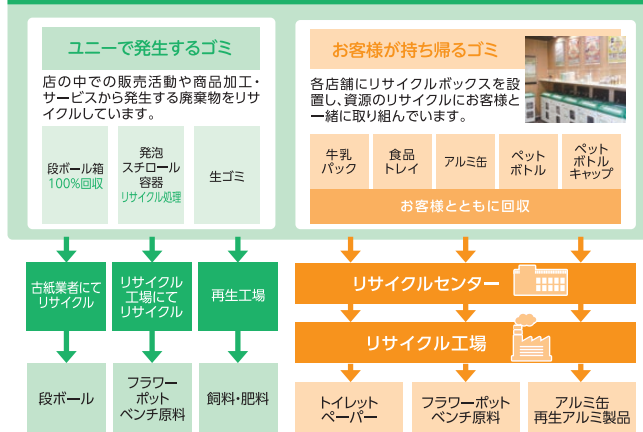


ユニーでは廃棄物を削減するために容器包装を削減し、使用済み容器包装を店頭回収してリサイクルしています。また全店舗に廃棄物計量システムを導入し、廃棄物の発生抑制やリサイクルを推進しています。

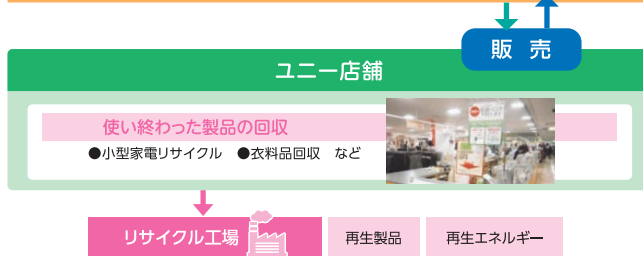
物流センターからの商品納品

商品搬入時に商品を入れてきた段ボール箱や発泡スチロール容器を使い捨てから通い箱(オリコン)にすることによって、廃棄物の発生を抑制しています。

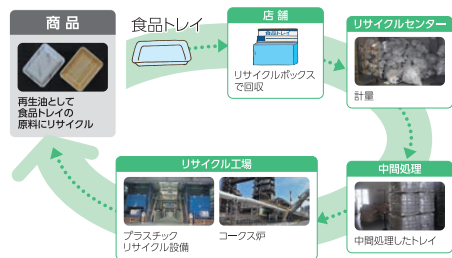
ユニー店舗



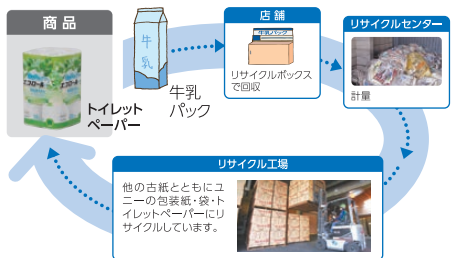
物流センターからの商品納品



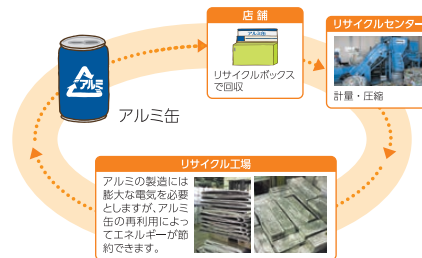
◆食品トレイのケミカルリサイクル



◆牛乳パックのリサイクル



◆アルミ缶のリサイクル

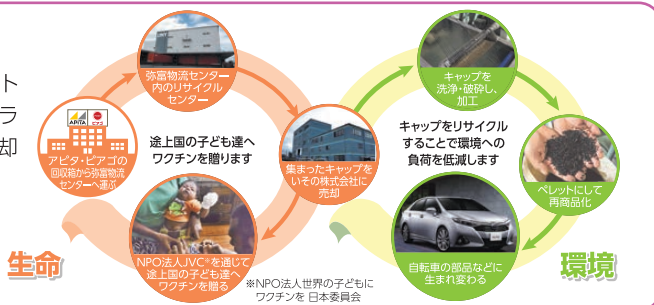


◆食品トレイのリサイクル



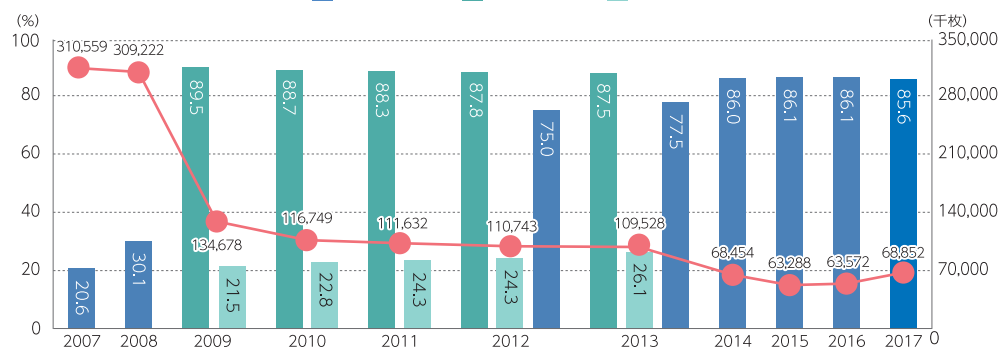
ボトルキャップ運動

ユニーでは回収したペットボトルキャップを、再生プラスチックの専門企業に売却し、NPO「世界の子どもにワクチンを日本委員会」に寄付しています。



レジ袋辞退率の推移とレジ袋使用量の推移について

◆レジ袋辞退率の推移



◆レジ袋使用量と容器包装リサイクル法委託金額の推移

年度	枚数 (単位:千枚)	重量 (単位:t)	委託金額 (税込)
2007	310,559	1,818	2億9,729万円
2008	309,222	1,851	2億7,978万円
2009	134,678	1,029	2億2,272万円
2010	116,749	964	1億6,655万円
2011	111,632	851	1億6,154万円
2012	110,743	839	1億4,868万円
2013	109,528	821	1億5,804万円
2014	68,454	616	1億6,104万円
2015	63,288	587	1億3,557万円
2016	63,572	573	1億2,489万円
2017	68,852	548	1億3,665万円

※容器包装リサイクル法に基づき、公益財団法人日本容器包装リサイクル協会へ支払った委託金額

食品リサイクル実績

国への報告数値「再生利用等実施率」は年々向上していますが、2017年度は初めて80%を超えました。

◆リサイクル実績

店舗から発生する食品廃棄物 (未利用食品)	2016年度			2017年度		
	排出量 (t)	リサイクル量 (t)	リサイクル率 (%)	排出量 (t)	リサイクル量 (t)	リサイクル率 (%)
生鮮食品の調理クズ (野菜・果物など)、消費期限・賞味期限切れや飲食の食べ残し	13,226	7,494	56.7	12,395	8,185	66.0
魚のアラ (魚介類の調理クズや頭・骨や皮など)	2,067	1,865	90.2	2,141	1,971	92.1
廃食用油 (使用済み揚げ油)	1,199	1,199	100.0	1,182	1,182	100.0
てんかす	961	550	57.2	918	531	57.8
合計	17,453	11,108	63.6	16,636	11,869	71.3

※端数を四捨五入しているため、合計数値と一致しない場合があります

◆食品リサイクルの推移

	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
食品廃棄物発生量 (t)	19,605	21,436	22,908	21,210	19,944	19,089	18,650	18,432	18,075	17,453	16,636
リサイクル量 (t)	6,656	7,561	9,444	10,378	10,812	10,874	11,099	11,066	11,126	11,107	11,869
リサイクル率 (%)	34.0	35.3	41.2	48.9	54.2	57.0	59.5	60.0	61.6	63.6	71.3
再生利用等実施率 (%) ※	34.0	47.3	48.9	59.0	64.1	66.5	69.6	69.7	72.9	74.9	80.6
食品廃棄物等の発生原単位 (売上高百万円当りの発生量:kg)	44.00000	35.83000	38.99000	35.64000	34.67696	34.15311	32.80502	33.03063	31.29166	30.43225	29.85494
発生原単位の対前年度比 (%)	—	81.4	108.8	91.4	97.3	98.5	96.1	100.7	94.7	97.3	98.1

※当該年度の単純実施率に2007年度比の発生抑制を加味した値

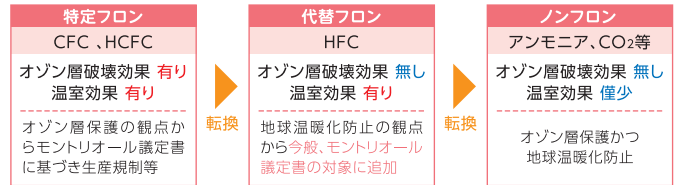
フロン排出抑制法への対応

地球温暖化とオゾン層破壊の原因になるフロンの排出抑制を目的に、フロン排出抑制法が2015年4月1日に施行されました。業務用エアコン、冷凍冷蔵機器の管理者に、機器およびフロン類の適切な管理が義務付けられました。

◆ノンフロン製品への転換が迫られています

古い機器の多くに特定フロンのR22等のHCFCが使用されていますが、オゾン層保護法によって2020年の生産が廃止されます。また、2016年10月に開催されたオゾン層保護に関する条約の締約国会議でHFCの代替フロンも、オゾン層の破壊係数は低いものの、先進国は2019年から段階的に削減されます。

◆フロン対策の推移



◆ノンフロン冷蔵ケース

アピタテラス横浜綱島の飲料売場にはフロンガスを使用しないCO₂冷媒を用いたノンフロン冷媒ケースを導入しました。地球温暖化の原因物質の排出を抑える狙いがあります。



ノンフロン冷蔵ケース

◆フロン類算定漏えい量 (t-CO₂)

フロン類の種類	R22	R404A	R410A	R134A	R407C	合計
2016年度	16,837	1,886	1,985	115	59	20,881
2017年度	14,856	3,474	2,121	2	46	20,453
前年比	88.2%	184.2%	106.9%	1.7%	78.0%	98.0%

省エネルギー・省資源活動

◆エネルギー使用量の推移

※データは、各年度とも2017年2月21日～2018年2月20日までのものです。※エネルギー使用量は店舗合計の数値



2017年度は38店舗でLED照明に切替えを実施し、大きな削減効果に繋がっている。2018年度は23店舗に切替を予定している。

LED照明への切替えの低発熱効果により店内熱量が減少し、空調使用を抑えたことも削減の要因です。今後は節水トイレの採用や雨水利用などにより、水道水の使用削減を図ります。

LED照明への切替えの低発熱効果により店内熱量が減少し、空調使用を抑えたことも削減の要因です。今後も効率の良い設備転換により削減を図ります。

石油からガスへのエネルギー転換により石油の使用量は減っています。多くは、非常用発電用に使われます。

◆5社の電気使用に伴う二酸化炭素係数 (平成29年度: t-CO₂/kWh)

電気供給事業者	実排出係数	調整後排出係数
東北電力株式会社	0.000545	0.000548
東京電力エナジーパートナー株式会社	0.000486	0.000474
中部電力株式会社	0.000485	0.000480
北陸電力株式会社	0.000640	0.000624
関西電力株式会社	0.000509	0.000493

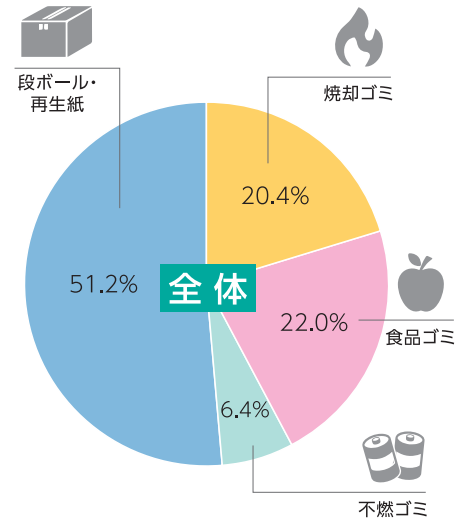
◆廃棄物排出量

(単位:t)

区分	種類	2015年度	2016年度	2017年度	前年比[%]	
可燃ゴミ	焼却ゴミ	一般可燃ゴミ	12,087	11,879	11,536	97.1%
		ビニール(食品系)	4,084	4,062	3,903	96.1%
		小計	16,171	15,941	15,440	96.9%
	食品ゴミ	生ゴミ	13,723	13,226	12,395	93.7%
		魚のアラ	2,088	2,067	2,141	103.5%
		てんかす	981	961	918	95.5%
廃食用油		1,234	1,199	1,182	98.6%	
小計	18,026	17,453	16,636	95.3%		
不燃ゴミ	発泡スチロール	823	799	734	91.9%	
	プラスチック	429	423	417	98.5%	
	ビニール(衣、住系)	867	869	885	101.8%	
	ビン	1,396	1,474	1,532	103.9%	
	缶	447	442	449	101.5%	
	ペットボトル	416	451	439	97.4%	
	陶器・ガラス	108	105	122	116.5%	
	金属ゴミ	146	146	144	98.9%	
	その他	96	94	93	98.9%	
	小計	4,727	4,802	4,815	100.3%	
紙類	段ボール	39,176	38,181	36,289	95.0%	
	紙類(再生可)	2,459	2,439	2,423	99.3%	
	小計	41,635	40,620	38,712	95.3%	
合計		80,559	78,817	75,603	95.9%	

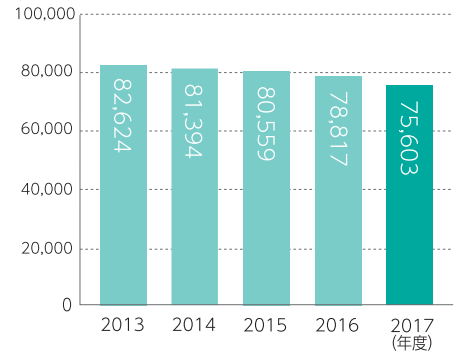
*端数を四捨五入処理しているため、合計数値と一致しない場合があります。

◆廃棄物構成比率



◆廃棄物総排出量の推移

(単位:t)



環境マネジメント(ISO14001)の取り組み



ユニーの環境理念に「持続可能な社会を構築するために、企業活動を通して貢献する」と明記しています。持続可能な社会とは、現在のことだけでなく、未来に向かって地球環境を守り、人間が自然と共存し、誰もが平和で幸せに暮らせる社会です。この大きな目的を果たすために、ユニーはISO14001環境マネジメントシステムを用い、店舗や事務所の環境影響を調べて改善することに努めています。そして、お客様と一緒に「環境にやさしいお買い物」によって持続可能な社会実現を目指しています。

ISO14001をアピタ・ピアゴ全店で認証取得

2004年1月の本社事務所を皮切りに各地区事務所が認証を取得しました。その後、店舗においても、従業員自らが環境問題について考え、環境マネジメントシステムを運用する事が重要だと判断し、2019年7月に全店の認証を取得しました。認証取得にあたり、ユニーオリジナルのISO教育DVDを作成、また、内部監査員養成研修を修了した社員418名が各店舗に出向き、理解活動に努めました。店舗では、毎月ISO推進委員会を開催し、環境実施計画書の具体的な数値評価・点検・見直しを実施しています。



従業員集合教育の様子



従業員から提案された「環境側面」という重視すべき環境課題に取り組む

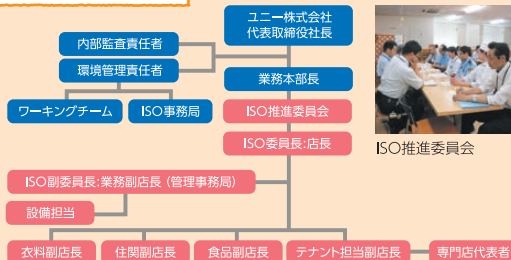


店舗審査の様子

ISO14001 認証取得に向けて

店舗環境ISO推進体制

店舗の環境ISO推進体制に基づくメンバーにより、月に1度、ISO推進委員会が開催されます。店舗で作成した環境実施計画書の具体的な数値を評価して、点検・見直しを実施し、具体的な施策を講じていきます。



ISO推進委員会

数字で見るユニー

お客様や地域と共に行動をおこすことで、ユニーの環境目標を達成することができました。

4 質の高い教育をみんなに

環境学習

55,200人

(2018年実績)

次世代を生きる子ども達への環境学習や消費者と一緒に体験型環境イベントを通じて、子ども達への教育を実施しています。

12 つくる責任 つかう責任

食品再生利用等実施率

85.1%

(2018年実績)

店舗の食品残渣を堆肥や飼料にリサイクルを推進し、食品リサイクルループを全店に拡大しています。

14 海の豊かさを守ろう

レジ袋辞退率

85.7%

(2018年実績)

お客様と一緒に「使わなくてもよい容器包装」使用削減に努めています。

エコ・ファーストの約束



ユニーは2008年に、環境への取り組みのトップランナーとして、環境大臣とエコ・ファーストの約束を交わしました。総合小売事業者として、自社での環境課題解決とともに、生産者と消費者をつなぎ「お買い物」を通して持続可能な社会実現を推進することを約束としています。特に、SDGsの目標である、食品廃棄削減とリサイクル推進や地球温暖化防止など、エコライフスタイルを提案し、推進することがユニーのエコ・ファーストです。



エコ・ファーストの約束と環境活動

◆廃棄物の発生抑制と資源循環の推進



循環型社会構築のために、店舗から排出する廃棄物を削減し、さらに再生資源化を推進しました。特に、世界的な課題である食糧廃棄を削減するために、食品リサイクルループを拡大し、エコ・ファーストの約束である、再生利用等実施率85.1%を達成しました。



食品リサイクルループパートナーの農場

◆SDGsを重点項目にした環境教育を実施



ユニーは地域に根差した小売事業者として、生産者と消費者をつなぎ、また自治体や地元NPOなど市民団体と共同で、持続可能な社会を目指した啓発活動を実施しています。



環境イベントエコ博で、消費者とつくったSDGsツリー



小学校での出張授業「お買い物でSDGs」

◆エコ・ファースト推進協議会



各業界の環境保全のトップランナーとして、環境省と約束した先進的な取組みを確実に実行するとともに環境省の指導を得ながらエコ・ファースト企業間の連携を図り、地球温暖化対策など地球環境保全の取組みのさらなる前進に寄与して参ります。



ECO FIRST

エコ・ファーストの約束

～環境先進企業として持続可能な社会構築の取り組み～

2019年6月18日

環境大臣 原田 義昭 殿

ユニー株式会社 代表取締役社長 関口 慶司

「未来の子ども達に美しい自然を残したい」

ユニー株式会社は、SDGs（持続可能な開発目標）の達成に向けて、環境マネジメントシステムを用いて小売業としての社会的責任を踏まえ、持続可能な社会構築を目指し、「お買い物」を通して消費者と一緒に地域に根ざした環境活動を推進します。

1 循環型社会構築を推進し、廃棄物の発生抑制と資源循環を推進します。

- 食品リサイクルを適正かつ積極的に推進し、業界のトップランナーの取り組みに努めます。
- 地域のリサイクル事業者・業者と連携し、地産地消の取り組みとなる全店舗での食品リサイクルループの取り組みを維持継続します。
- 食品リサイクルループの取り組みを更に推進し、2023年までに再生利用等実施率90%を達成します。
- 食品廃棄物の発生抑制の取り組みを更に推進し、2023年までに、年間売上（百万円）当たりの食品廃棄物発生量27kg以下を達成します。
- ワンウェイのプラスチックによる海洋汚染防止の取り組みを推進し、リデュースの徹底、持続可能なリサイクル、バイオマスプラスチックの利用を促進します。
- レジ袋の更なる削減の取り組み、2023年までにレジ袋の持続率90%を目指します。
- 食品トレイ、ペットボトルをはじめとする使用済み容器包装の店頭回収の推進を図り、全て100%国内環境にて効果的に再生資源化を図ります。
- バイオマスプラスチックの利用促進については、有料レジ袋は、25%以上含有品、また、食品売場で使用している惣菜ケースには、100%含有品を使用していきます。
- 店舗1店あたりのリサイクル回収を実施し、小売家電リサイクル法に基づく適正回収に努め、限りある資源を有効に循環させます。

2 持続可能な社会（脱炭素社会・循環型社会・自然共生社会）構築のために、環境教育を実施します。

- SDGs（持続可能な開発目標）をテーマにした環境学習の取り組み、次世代を生きる子ども達に対して、お買い物を通して持続可能な社会を実現するために、学び、考え、行動する環境学習の実践を推進します。
- 店舗において環境学習を毎年実施し、年間一店舗平均100人以上の子ども達に環境教育を実施します。
- 小学校などへの出張授業の実施を推進し、年間500人以上の子ども達等に環境教育を実施します。
- 学習に参加した子ども達に新たな価値観を持ち、それを周りの人に広げていく波及効果の高い環境教育プログラムを教育機関と共同で作り上げ、実施・効果測定を行います。
- 消費者の行動変革により持続可能な社会を構築するために、店舗で環境イベントを開催し、年間5万人以上の消費者にエコライフスタイルを啓発します。
- 店舗での省エネ、再生資源活用を目標とし、自社の全従業員及びテナント従業員に環境教育を実施し、廃棄物削減・リサイクルを推進します。
- 当社と取引のある環境関連事業者（廃棄物処理業・リサイクル業等）を一緒に集めて、法令遵守・先進技術施設見学などの環境教育を年2回実施します。

3 消費者の行動変革による、持続可能な社会を構築します。

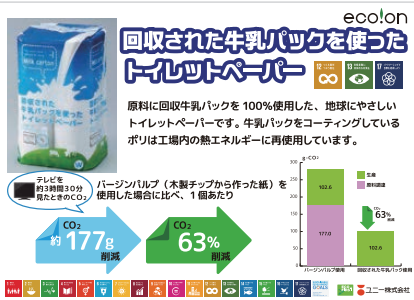
- 「お買い物」を通して、お客様とともにサプライチェーンにおける温室効果ガス排出量の削減（スコープ1,2,3）を推進します。
- 容器包装等が環境配慮設計された商品やリサイクル素材の環境配慮型PB商品等の開発や提供を推進します。
- 電気自動車の普及促進のために、大型店舗に電気自動車の充電スタンドの設置を推進し、お客様に充電サービスを提供します。

ユニー株式会社は、上記取り組みの進捗状況を確認し、その結果について定期的に公表するとともに、環境省へ報告します。

◆消費者の行動変革による持続可能な社会構築



ユニーの環境配慮型PB商品ecolonの環境負荷低減効果を消費者に伝え、商品選択要因のひとつにしてもらうために、需要の多い4品目のカーボンフットプリントを計測し、環境イベントで開示しました。特に「消費者が店頭回収に持参した牛乳パックを原料にしたトイレットペーパー」は、バージンパルプで製造したものに比べ、63%のCO2を削減したことで、消費者のエコライフスタイルが地球温暖化防止に有効であることを知っていただきました。



牛乳パックを再生利用したトイレットペーパー

◆エコ・ファースト企業

コラボレーション企画「エコとわざコンクール」



エコ・ファースト企業が協働して、エコなことわざである「エコとわざ」のコンクールを小中学生対象に行っています。第10回目の開催となる2019年度のユニー賞は「家族はね仲がいいほどエコになる」という作品が選ばれました。





2015年、地球温暖化対策の枠組み「パリ協定」が採択され、日本は2030年までに2013年度比、温室効果ガスを26%削減する目標を掲げています。ユニーでは、この目標に貢献するため脱炭素型環境配慮商品や容器包装資材を採用し、消費者と共に「賢い選択」という意味の国民運動「COOL CHOICE」に賛同し、推進しています。

国民運動 旗印はCOOL CHOICE

◆COOL CHOICEとは

国は地球温暖化対策を国民へ普及するために、「COOL CHOICE」活動を2015年より展開しています。地球温暖化への危機感を共有し、一人ひとりの意識を変え、ライフスタイルを賢く選ぶことを目指しています。



電気自動車の充電スタンドを設置

ユニーは充電スタンドの設置を推進しています。お客様がお買い物中に充電していただくことができ、遠方からも安心して来ていただけます。2019年7月時点で、充電スタンド設置店舗数は75店舗、普通充電スタンド112台、急速充電スタンド4台です。また充電スタンド本体に、日本政府が推進する国民運動「COOL CHOICE」の旗印となるロゴマークを掲示して利用を促しています。



スーパーへは電気自動車でCOOL CHOICE

プラスチック削減への取り組み

環境省主催の「プラスチック・スマート」に賛同し、リサイクル活動やプラスチックの使用削減及び環境教育等の観点からプラスチック・スマートキャンペーンに参加しています。



環境配慮型PB商品eco!on

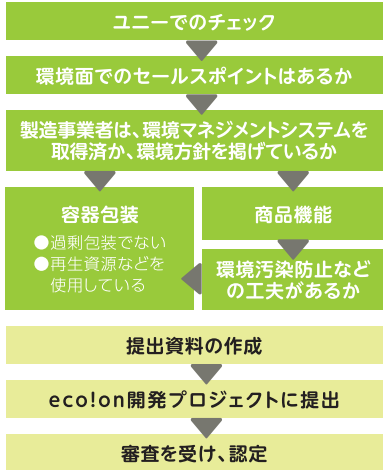


◆環境に配慮したオリジナル商品「eco!on」(エコオン)

私達の普段の生活を省エネ・省資源といったエコライフスタイルに変えることで、持続可能な社会構築に貢献できると考えています。ユニーが企画・開発する環境配慮型PB商品「eco!on(エコオン)」は原料・製造・容器包装・販売・使用時・使用後といった、生産者から販売者・購入するお客さま・再生利用事業者などのつながりの中で、環境負荷を低減させた商品です。お買い物の際、「環境に優しい」という視点で商品を選んでいただくことで、お客さまと一緒に地球環境の保全に貢献し、持続可能な社会の構築を目指していきます。



eco!on商品に認定されるプロセス



食品リサイクルシステム 循環型社会



世界中で食品廃棄は大きな問題であり、日本では食料自給率が40%に満たないにもかかわらず、毎日たくさんの食料を廃棄しています。ユニーでは、食品リサイクル法を遵守し、未利用食品を食品リサイクルループによる地域循環型農業で利活用し食品ロス削減に努めています。

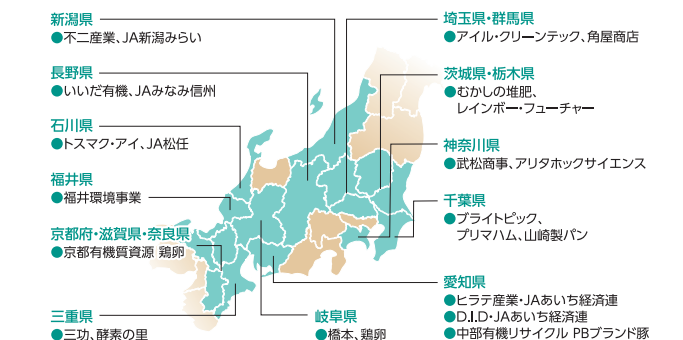
ユニーの食品リサイクル方針

ユニーでは持続可能な地域循環を目指し、安全でより環境負荷が少なく、経済的負担が重くない食品リサイクルループを目指します。

- ①安全であり環境負荷が少ないこと
- ②再生資源として有効であること
- ③経費が抑えられること
- ④継続できる方法であること

食品リサイクル実績

食品リサイクルループを全店に拡大したため、2018年度再生利用等実施率は85.1%と大きく向上しました。





ユニーは、持続可能な社会構築のために環境学習を実施しています。

ユニーはESD(持続可能な開発のための教育)の考え方を取り入れた環境学習に取り組み、現在のことだけでなく未来のことを考え、子ども達が美しい自然の中で生きていくための「力」を育むことを願い、活動しています。



店舗での子ども環境学習

店長を隊長としてリサイクルやお店の裏側を探検するお店探検隊や、子ども達自身がラリー形式で回るエコクイズラリーを2018年には117回実施し、2,592名が参加しました。身近なスーパーでの環境学習を通じて、これからの持続可能な社会を生きる子ども達がグリーンコンシューマーになることを望みます。

1 リサイクルの秘密を知ろう	2 環境にやさしいお買い物をしよう	3 お店の裏側を探検しよう	4 エコ工作にチャレンジしよう
<p>リサイクルボックス 飲み終わったり食べ終わったあとの容器をリサイクルボックスに持ってきてくれると新しいものに生まれ変わります。</p> <p>バイオマスプラスチック バイオマスプラスチックは植物由来のプラスチック。野菜や果物、卵の容器として使用しています。</p>	<p>ecolon商品 環境配慮型PB商品 ecolonの環境にやさしい秘密を知りましょう。</p> <p>環境ラベル 文房具にも実は環境にやさしい商品が沢山あります。</p>	<p>ゴミの計量体験! 従業員が働く、いつも入れないお店の裏側では、ゴミを分別して計量しています。</p> <p>オリコン組み立て体験 段ボールを減らず取り組みとして、折りたためて何度でも使える「オリコン」を使っています。</p>	<p>リサイクル工作 普通ならゴミになる物を材料にしてリサイクル工作で生まれ変わります。</p> <p style="background-color: #76b82a; color: white; border-radius: 50%; padding: 5px; display: inline-block;">任務完了!</p>



地域社会へ出張授業

子ども達が分かりやすく学び、楽しく体験し、環境問題を身近な問題としてとらえる事ができるように出張授業を開催しています。



循環型農業体験

店舗から出るキャベツの外葉や魚のアラなどの未利用食品を原料にして作った堆肥でお米や野菜を育て、店舗で販売しています。良い土から美味しい野菜が作られることを自分達で見て触って収穫の喜びを感じました。



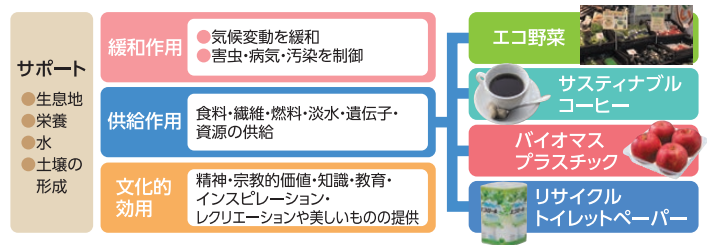
生物多様性

自然共生社会



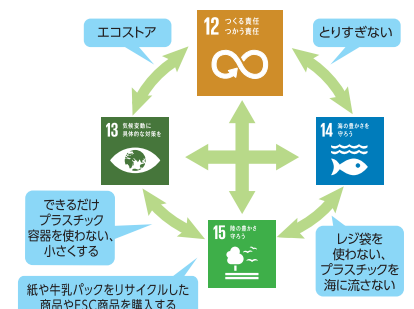
生物多様性を守る取り組み

私達が生きていくために必要な酸素は植物によって作られ、汚れた水は微生物などによって浄化されています。そして人間は他の生き物の生命を食べて生きています。そして、生き物からの「恵み」をもたらす生物多様性を守って作られた食べ物や製品を選んで購入することが、生物多様性を守ることにつながります。ユニーはこうした「供給作用」をお客様と一緒に「お買い物」を通して行っています。



テーブルの上の生物多様性

ユニーに並んでいる食品は「生物多様性の恵み」です。「私達は生き物の命をいただいて生きている」ことに感謝し、自然環境やそこで生きる生き物を保全して生産された食品を選ぶことで、生物多様性に貢献することが私達の務めです。



社会貢献・地域貢献



店舗での取り組み

ユニーの店舗ではすべてのお客様が快適にお買い物を楽しんでいただけるように、店内の工夫をしています。また、地域の方々の協力の下、「地球にやさしいお買い物」を進め廃棄物の削減・分別の実施、環境にやさしいプライベートブランド商品の販売などに努め、地域の方々が集うコミュニケーションスペースを目指します。



1 リサイクルステーション

お客様のお買い上げ後にゴミになるものを回収し、リサイクルしています。



2 車椅子の無料貸し出し

店内でご利用いただける車椅子をご用意しております。



3 段差のない入り口

段差にはスロープをつけ、公道入り口から各玄関まで誘導ブロックを設置しました。



4 おもいやり駐車場

体の不自由な方、高齢者の方、妊産婦の方など優先の駐車場です。



5 小さなお子様の遊び場

お子様に安全に遊んでいただけるように、ソフトな素材を使用した遊びのスペースです。



6 ベビー休憩室(赤ちゃんルーム)

お子様の授乳やおむつ替えにご利用いただけるベビー休憩室です。



！ 大規模災害への備え

大規模地震や災害が発生した時に地域の避難拠点として利用いただける設備を設置しています。

●かまどベンチ
非常時の炊き出しに利用できるベンチです。



●災害用トイレ
スツールの中に便器が収納されているので組み立てて使用します。



！ バリアフリー新法

すべてのお客様に快適にお買い物をしていただくため、バリアフリー新法に対応した店舗づくりに取り組んでいます。



エコとお買い物券プレゼント企画

家庭で不要になった衣料品や羽毛布団をお持ちいただいたお客様に割引券として使用できるエコとお買い物券を差し上げています。リサイクルパートナーからの引き取り金は緑化活動や熊野古道の保全活動に寄付しています。



クリーンキャンペーン

ユニーでは毎日店舗周辺の清掃活動を行っています。6月と10月の環境月間には、通学路や、公園、遊歩道など範囲を広げて一斉清掃を行っています。



エシカルなお買い物

アピタ・ピアゴの店舗でフェアトレード商品を取り扱い、販売することで生産者の生活改善や自立、生産地の環境保全などを支援したいと考えています。



お買い物からフェアトレードを考える

フェアトレードとは、「公平・公正な貿易」のことで、開発途上国の原料や製品を適正な価格で継続的に購入することにより、立場の弱い開発途上国の生産者や労働者の生活改善と自立を目指す貿易のしくみです。ユニーでは、これらの活動を継続的に取り組んでいます。

認知症買い物セーフティーネット

ユニーでは認知症の方にも安心してお買い物を楽しんでいただけるようにサポートしています。従業員に認知症への理解と見守りの役割を担ってもらうための教育を行い、店内での困りごとや対応で支援しています。



「未来の子ども達に美しい自然を残したい」

ユニーは環境に優しい生活をお客様と一緒に進めていきます。

2020年1月発行



ユニー株式会社
愛知県稲沢市天池五反田町1番地
<https://www.uny.co.jp/>

